

あなたと猫と世の中

会報No. 60

平成 27 年 12 月発行

猫との暮らしを考える
神奈川捨猫防止会

<http://www.sutenekoboushikai.com>

1匹のメス猫を保護し、そのまゝ飼っていたら数えきれないほどに!
(川崎市内で"本当にあった例です。)"

こんなに多くの猫を幸せにしてあげることができますか?
不妊手術さえしてあれば・・・

メス猫は妊娠していました。そして、まもなく3匹のかわいい赤ちゃんが生まれました。

そこまではよかったのですが...

① ② ③ ④ ⑤ 回のお産

メス = メス
オス = オス

2年目にはマンションの室内は猫・猫・猫私も数えきれません。こんなにふえるとは思いませんでした。もう産まないと思ってました。

メス 27匹 オス 20匹の不妊・去勢手術のお手伝いをしましたか? なんと、ほとんどの猫が妊娠中でした。川崎市 U.S.

① 正確な数は不明ですが、多くの例から判断し、上図になりました。

早目の不妊去勢手術で猫も人も幸せに

偶発的な妊娠は悲しい結果を招きます。最近の報告では手術を受けた方が手術を受けていない猫より長生きする傾向があります。

イラスト/ながさわけいこ

早期不妊手術	P 2 ~ 3	秋のイベント	P 6 ~ 9	お便り	P 13 ~ 14
環境省のパンフレットより		町の中で	P 10 ~ 12	事務局より	P 15 ~ 16
	P 4 ~ 5				

不妊手術こそが動物の過剰繁殖を抑える最善策

エリザベス・オリバー

エリザベス・オリバーさんは関西地区を中心に、主として捨犬・捨猫の救済を目的とする NPO 法人「ARK」(Animal Refuge Kansai) を立上げた方です。この文章は「ARK」の機関誌に掲載されたものを「ARK」のご了解を得て転載しました。

* * * *

かつて、アークから(最も愛くるしい時期である)生後 2~3 か月の子犬・子猫を譲渡する際には「6 か月くらいになったら必ず不妊手術をしてくださいね」と里親さんをお願いしたものです。獣医師が判断する手術適齢期がその頃だったからです。しかし、それはまったくの「賭け」でした。仮に 10 匹の子犬を 10 人に譲渡したとして、新しい飼い主 10 人のうち 9 人が忠告通り犬に避妊・去勢手術を受けさせても、受けていない犬が 1 匹でもいれば、私たちの懸命の努力が水の泡に帰するからです。ペットに不妊手術を受けさせない理由としては、怠慢、手術料金が安い、手術のリスクを懸念、さらには、去勢すると雄らしさを失うのではないか(主として男性飼育者の見解)、雌には初産を経験させた方が良い(獣医師にもそう考える人がいる)、手術をしたペットは太りやすい(実際は、肥満の原因は食餌と過食のせい)などの誤解からくるものです。

しかし、上述の事情も今となっては過去のこと、早期避妊去勢手術が普及する以前の話です。主としてドクター・マッキー(Dr. Marvin Mackie)、ドクター・ヤング(Dr. Jeff Young)等、米国人獣医師にならって、アークが早期不妊手術を採用し始めてから 10 年以上になります。アークから新

しい家庭に送り出す犬猫はすべて不妊手術を済ませてきました。私たちが早期不妊手術を初めて提案したとき、日本の獣医師の多くは懐疑的でした。理由は、彼らが旧式な手法に慣れていて、不妊手術は動物が生後 6 か月を過ぎるまで待つべきだと思ひ込み、また、幼齢動物に対する不妊手術への不安もあったからです。しかし、いったん実施してみると、最初は 4 か月齢、次は 3 か月齢、次は 2 か月齢という風に段階的に試みたところ、成長した犬猫よりも簡単であることが判明。麻酔時間の短縮、脂肪を切る必要がない、出血量が少ない、術後の回復が早い(術後 30 分で子犬・子猫が覚醒して走り出し、食欲を示す)などのメリットが確認されたのです。実際、今では早期避妊去勢手術が標準化し、とりわけ、世界各地のシェルターで実施されています。かつて「早期不妊は骨格の成長を妨げる」と言われたのも今は昔のことです。

避妊去勢手術、とりわけ、早期不妊の重要性と利点はどれほど強調しても足りません。動物救助にあたる個人であれ、保護活動の里親をさがす団体であれ、不妊手術は必ず実施すべき責任であり、絶対的義務なのです。また、収容した子犬を新しい飼い主に譲渡する保健所などの公的機関においても同様です。不妊手術こそが、過剰繁殖がもたらす苦しみや死から犬猫を救うために実施できる最善策なのです。避妊していない 1 匹の雌犬とその子孫は、6 年間に 6 万 7 千匹もの子犬を産み出す繁殖力をもっています。一方、雌猫 1 匹とその子孫の場合は、6 年間で 37 万匹もの子猫を生産し得るのです。

日本の動物管理施設で毎日 500 匹もの「不用動物」が殺され、その多くが子犬・子猫であることを思うと、不妊手術こそが彼らの命を救い、過剰頭数をコントロールする最善策であることは明らかです。その上、手術自体にも様々な効用が確認されています。

一般に、不妊手術を受けた動物の方が健康で、長生きします。雌の場合、避妊手術は発情期のストレスと不快感をなくし、子宮癌と子宮蓄膿症にかかるリスクを軽減し、乳腺腫瘍の発症リスクを抑えます。雄の場合、放浪癖や喧嘩が少なくなり、精巣腫瘍を防ぎ、前立腺癌の発症リスクを抑えます。不妊手術済みの猫は F I V (ネコエイズ) や F e L V (ネコ白血病) のような致命的感染症にかかる確率はるかに低いのです。

世界各地の自治体当局は野良犬猫問題に巨額の税金を投入し、飼い主不明の動物を捕獲して殺しています。日本の場合、福島の実状からわかるように、地方では、ペットに不妊手術を受けさせる飼い主はほとんどいません。(実際、2011 年の東日本大震災の後、アークは被災ペット 200 匹を保護しましたが、その中で手術済みの動物はほぼ皆無でした。) 被災地では、飼い主の手を離れたペットの生き残りが、爆発的に増殖し続けています。「もうひとつの災害」が進行しているのです。

被災動物の繁殖予防対策に全力で取り組んでいるのは、ある民間組織だけです。2011 年の大災害後に野生化した犬猫の増殖を防ぐため、福島にクリニック(不妊手術専門病院)を開設した ARSF (アニマル・レスキュー・システム基金) で、「スペイクシマ」プロジェクトを掲げて精力的に活動しています。

不妊手術のタイミングの有力候補

オリーブの木動物病院院長 遠藤文枝 (遠藤先生は静岡県の動物病院での診療の傍ら、殆ど隔週末、福島県白河市のスペイククリニックに通って、2012 年以來、約 2500 匹の被災地の猫の不妊手術をされています。)

猫の避妊去勢手術は、いつ行うのがベストなのか? 飼主にとっても獣医師にとっても悩ましい決断です。ただ、その選択肢の中に、早期不妊手術があるということは、すべての関係者にどれほど有利な事であるかを、声を大にして伝えたいと思います。

早期の定義は 6 週齢～14 週齢。(日本では 5 ヶ月齢以下でそう呼ばれる場合もあります)。おおよその体重 0.5～2.0kg。手術手技は成猫と変わりませんが、当然全てのスケールが小さくなります。麻酔量、出血量、切開創の長さ、手術時間、術後回復までの時間。

どうでしょう、想像しがちな痛々しいイメージとはかけ離れていませんか?

実際、私は飼主の不明な猫も、飼い猫も同じ術式で不妊手術をしています。幸い、早期に関するクレームは未だ聞いてません。それどころか、2 匹目 3 匹目も早期を希望される方が多いです。手術の最適な時期は飼育環境、動物の健康状態、社会的事情などで異なります。リアルな現場は、はっきり線引き出来ない事だらけです。

その中でも、TNR や保護猫はもちろん、飼猫も含めた過剰繁殖問題に対して、一匹も産ませない早期不妊手術が多いに貢献することは間違いありません。

猫問題に関わる皆様には、是非、早期不妊手術をメニューに加えて頂きたいと願います。

考えよう 1

ペットがいきいきと生活するために

ペットの「5つの自由」のこと

人間と同じように動物にも命があり、生きていくために必要な要求（基本的なニーズ）があります。人間に飼われている動物や、人間によって制限された環境にいる動物は、自らの意志で基本的なニーズを満たすことはできません。飼い主にはペットのニーズを満たし、ペットができる限り快適に生活ができるようにする責務があります。

動物の基本的ニーズ

行動的
社会的
心理的
環境的
生理的



「5つの自由」と「終生飼養」

5つの自由とは、動物の基本的なニーズが満たされて、動物が心地よく、安心して安全に暮らしているかを確認するための指標です。動物を飼う時に飼い主は、この5つの自由を与えなければなりません。そして、動物がその命を終えるまで適切に飼養すること（終生飼養）が、飼い主の動物に対する責務です。

飢え・渇きからの自由

Freedom from Hunger and Thirst

動物にとって食餌はとても大切です。動物の種類や年齢や健康状態にあった適切なフードを与えましょう。水は新鮮なものがいつでも飲めるようにしましょう。



痛み・負傷・病気からの自由

Freedom from Pain, Injury or Disease

ケガや病気の場合には適切な治療を受けさせましょう。日頃から病気の予防を心掛け、健康状態をチェックしましょう。



不快からの自由

Freedom from Discomfort

清潔で安全で快適な飼養場所を用意して、動物が快適に過ごせるようにしましょう。



5つの自由

The Five Freedoms for Animal



本来の行動がとれる自由

Freedom from behave normally

飼い主は、それぞれの動物が本能や習性に合った動物本来の行動がとれるように工夫しましょう。



恐怖・抑圧からの自由

Freedom from Fear and Distress

飼い主は動物が恐怖や抑圧を受けないように、また、精神的な苦痛や不安の兆候を示さないように、的確な対応をとりましょう。

「5つの自由」とは

NOTE

国際的に認められている動物を適切に飼う（扱う）ための考え方です。日本でも「動物の愛護及び管理に関する法律」第2条に定められている人が動物を取り扱う場合の基本的な心構えとして、命ある動物をみだりに殺し、傷つけ、又は苦しめることがないようにするだけでなく、動物の習性を考慮して適正に取り扱うこと、適切な給餌及び給水、必要な健康の管理並びにその動物の種類、習性等を考慮した飼養環境の確保を行うよう求めています。

2

「飼う前も、飼ってからも考えよう」平成 27 年 8 月発行より抜粋

考えよう 2

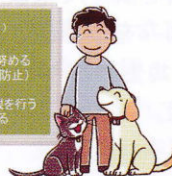
飼い主の責務を果たすために

現実的な生活のこと

動物を飼うことは、動物の命を預かり、動物と共に地域社会の中で暮らしていくことです。飼い主は、動物が健康で快適に暮らせるようにするとともに、社会や近隣に迷惑を及ぼさないようにする責任があります。

飼い主の責務 （動物の愛護及び管理に関する法律第7条より）

- 1) 健康と安全を保持し、他人への迷惑を防ぐ
- 2) 動物の興奮について正しい知識を持ち、予防に努める
- 3) 逃げ出したり、迷子にさせない対策をとる（逸走防止）
- 4) その命を終えるまで適切に飼う（終生飼養）
- 5) 増えすぎて管理ができなくなるような繁殖の制限を行う
- 6) 自分の飼っている動物とわかるよう明示をする



飼う前に考えること

居住環境

今の住居はペットが飼える環境ですか？
転居の予定があれば、慎重に判断しましょう。

ライフスタイル

飼いたいペットの種類や大きさ、生態、特性などが、あなたの生活環境に適していますか？

家族の同意

家族みんなが賛成していますか？
全員で協力して世話ができますか？

健康と体力

あなたの体力で世話ができるペットですか？
家族に動物アレルギーの人はいませんか？



ペットの寿命

ペットが寿命を迎えるまで飼い続けることができますか？
高齢になったペットの世話や介護を考えていますか？

毎日の世話

ペットに安全で快適な飼養環境を用意できますか？
何があっても、毎日欠かさずペットの世話に手間と時間をかけられますか？

周囲の人々への配慮

鳴き声やふんの放置などで近隣に迷惑をかけないようにできますか？
必要なしつけについて勉強し、それを実践できますか？

万が一のとき

地震や洪水などの災害時や、万が一あなたが飼えなくなったとき、ペットの命を守る方法を考えていますか？

ペットにかかる費用

ペットを飼い続けるためには、フードや日用品、治療費などでお金がかかります。飼い始めてから経済的な理由で行き詰らないように、あらかじめ必要な費用を考えておきましょう。



<参考>1年間にかけた費用（一頭あたり）

	犬	猫
病気やケガの治療費	80,912 円	49,875 円
フード・おやつ	47,983 円	38,936 円
しつけ・トレーニング料	40,614 円	-
シャンプー・カット・トリミング料	42,740 円	8,294 円
ペット保険料	38,052 円	29,067 円
ワクチン・健康診断等の予防費	28,311 円	12,902 円
ペットホテル・ペットシッター	27,139 円	15,624 円
日用品	19,716 円	17,200 円
洋服	13,603 円	4,321 円
ドッグランなど遊べる施設	7,407 円	-
首輪・リード	7,061 円	2,612 円
防災用品	5,613 円	5,964 円
合計(円)	359,151 円	184,795 円
回答数	1,833 件	409 件
どうぶつの平均年齢	5.1 歳	4.5 歳

●2015年1月 アニコム損害保険株式会社調べ

「飼う前も、飼ってからも考えよう」平成 27 年 8 月発行より抜粋

9月の動物愛護週間を中心に、県内各地で開催された動物愛護のイベントに、当会は発足時以来、「猫との暮らし相談コーナー」で、来場者の方々と猫に関する様々な問題をお話する機会を設けて来ました。今年も、猫にまつわる悩みをご相談される方々と一緒に、「猫との共生」についてお話しできる機会を得ました。

・川崎市動物愛護フェア

9/20 (日) 10時～15時 参加者 5名
川崎市宮前区役所横広場

・動物愛護フェスタ よこはま

9/23 (祝) 10時～15時 参加者 7名
山下公園 おまつり広場

・動物フェスティバル神奈川 2015 in はだの

11/3 (祝) 10時～16時 参加者 6名
文化会館周辺広場

・横浜市青葉区 区民まつり

11/3 (祝) 10時～15時 参加者 5名
青葉区役所周辺

・横浜市栄区 区民まつり

11/7 (土) 10時～15時 参加者 3名
本郷中学校 校庭



川崎市動物愛護フェア

9/20 (日) 10時～15時

川崎市宮前区役所広場

川崎市と獣医師会主催の「愛護フェア」が開催されました。

不安定な気候が続いていた中、当日は突然、うだるような暑さで「水分補給必須！」の一日になりました。

人出が少なく感じたのはシルバーウークのせいかもしれませんが、立ち寄った多くの人が快くアンケートに応じてくれました。猫より犬の飼育者が多いと感じたのは集合住宅が多い土地柄だからでしょうか。

今年は久々に行政主催の譲渡会が保健所の一室で開催されました。

センター収容の犬やボランティアが個人宅で保護している猫たちが、ゆったりしたケージ(おり)に一匹ずつ入れてもらって新しい出会いを待っていました。保護主は付きっきりで新しい飼主探しに追われていました。センターは定期的に譲渡会を開催するようになりましたが、新しく動物を飼いたい人は、まずはセンターを訪問するような風潮が根付くことも大切と思います。

来年は麻生区役所で開催予定とか。お近くにお住まいの会員の方は、年に一度の、この機会に会員同志の交流もかねて、少しの時間

でも結構なので是非ご参加ください。

(中曽根記)

参加者：太田、川口、
中曽根、
橋詰 (ご夫妻)

動物愛護フェスタよこはま 2015

あなたはペットと一緒に避難できますか

9/23 (祝) 10 時～15 時

動物愛護フェスタよこはま実行委員会と横浜市健康福祉局の共催で、山下公園おまつり広場で開催されました。好天に恵まれ、穏やかなイベント日和の一日でした。

横浜市では昨年に続き、ペットの災害時同行避難の広い周知を計ろうと「災害時避難体験」や「避難所でのハウストレーニング」、火災時の煙を再現しペットと一緒に「煙ハウス体験」、災害救助犬によるデモンストレーション等が行われました。避難グッズの展示ブースで具体的な避難時の説明がなされていました。

神奈川捨猫防止会は神奈川動物ボランティア連絡会とテントを並べ、ペットに対する確かな知識と共生のあり方について知ってもらうため、アンケートを通じて猫の飼い方や地域猫との関わり方等の相談に対応しました。今回はアンケートの内容を一新。設問を読んで貰い、猫に対する最低限の知識と理解を深めて頂くことができました。

今回、猫のお出かけ袋は猫の避難グッズとしての展示にとどまりましたが、多くの方に興味を持っていただき、作りかたのプリントを差し上げることができました。

今後も同行避難時に必要な情報を数多く発信していきたいと思えます。(芝崎記)

参加者：太田、清水、芝崎、橋詰（ご夫妻）、間部、松尾、松村

動物フェスティバル神奈川 2015 in はだの

11/3 (祝) 10 時～16 時

秋晴れの秦野、私は秦野駅から会場へのシャトル・バスで会場に 9 時 50 分ごろ着きました。既に会員の皆様は勢揃いで、神奈川捨猫防止会のブースは準備完了の状態でした。

例年持ち回りで県内 10 市を巡る県主催の動物フェスティバル、今年は秦野市制 60 周年記念の市民祭りの一環として参加、全国各地からの県民コーナーや、秦野市民の展示会、等々、沢山のテントが立並び、とても賑やかなイベントになりました。

動物フェスティバルの中で、特に興味深かったのは、子供の獣医師体験で、白いユニフォームを着て聴診器をつけた子供たちが、大きな鶏の心臓辺りを診断し、ドキンドキンという音を聴いて目をまるくして驚いている様子でした。

当会のブースには様々な猫問題を抱えられた方々が訪れました。相変わらず、外猫、地域猫の問題が多く、太田会長や橋詰副会長は、長年の経験に基づいた具体的な対処について話されました。

猫のお出かけ袋も人気で、6 枚の売上げがありました。(吉田記)

参加者：安藤、市川、太田、橋詰（ご夫妻）、吉田



青葉区民まつり

11/3 (祝) 10 時～15 時

今年も晴天に恵まれ多くの人でにぎわいました。区役所の駐車場に繰り広げられた販売コーナーのブースでは、人気の手作りビーズのストラップ、デコパージュ石鹸、マグネット、ご寄付の衣類や食器など、そして今年は獣医師会から頂いた可愛いトートバッグに、お菓子やTシャツを入れて販売しました。どれも大好評でした。

体育館の中の健康フェスティバルのブースでは、今年も獣医師会の隣で、先生方にもお手伝い頂きながらホワイトボードにたくさんのネコの写真や、説明のボードを貼り、新しいアンケートにもご協力頂きながら多くの方が足をとめてボードに見入って下さり、私たちは、ネコの相談等に対応しました。

(長澤、清水記)

参加者：有馬、柴崎、清水、長澤、藤村

栄区民まつり

11 月 7 日 (土) 10 時～16 時

本郷中学校校庭

「栄区動物と仲良く暮らせる町づくり協会」のテントの中に「猫との暮らしを考える捨猫防止会」として参加させて頂きました。

地元の協議会の「動物ふれあいコーナー」では犬のミニチュアピンシャーと、黒とら猫のちーちゃんが大人気！おかげで当会のコーナーも大盛況で「お出かけ袋」の説明で猫談義に花が咲き、大変好評を頂きました。「地元のマンションで起こったトラブルを解決するのに、協議会の指導や協力があってようやく“TNR”は実施できたが、トイレの問題が残った」という相談がありました。用意していたプリントでは不十分だったので、次の日、参考になる資料を郵送しました。

(橋詰記)

参加者：太田、橋詰、松尾



A4サイズのプリントにも作ってあります

金沢まつり「いきいきフェスタ」を振り返って

神奈川捨猫防止会金沢支部は、金沢まつり、秋の「いきいきフェスタ」に、平成17年(第30回)から26年(第40回)迄、参加させて頂きました。

会場は毎年「金沢区海の公園」。当日はバザー、野外ステージ、地引網、八景島共催イベント等々、毎年、大盛況の一日でした。

神奈川捨猫防止会金沢支部は動物愛護啓発の一環として、猫との暮らしに関する様々なご相談に対応させて頂きました。

この10年間の皆様方の温かいご支援・ご協力に感謝申し上げます。

(金沢区 松尾和子)

動物愛護フェア・アンケート 集計表

今年はアンケートの内容を一新しました。

外猫問題で、一般の方々に是非とも知っていただきたい“早期不妊手術”や“耳カット”の理解を得られるような設問にいたしました。

この集計表は、神奈川捨猫防止会が参加した秋のイベント

横浜市40人、川崎市30人、秦野市57人、青葉区35人、栄区33人、5ヵ所の結果です。

	設 問	知っている	知らない	無回答
1	メス猫は生後半年でママになる	169	25	4
2	妊娠する前に不妊手術を受けさせることが大切である	183	14	1
3	ネコの妊娠期間は約2カ月である	147	45	6
4	メス猫は毎年2～3回、赤ちゃんを産む	167	30	1
5	オス猫も去勢手術が必要である	182	14	2
6	さわれない猫でも捕まえる方法がある	173	22	3
7	自治体によっては、不妊去勢手術費用の助成金制度がある	184	13	1
8	外猫で耳カットしてある猫は不妊去勢手術済みである	163	31	4

- * 設問3、設問4はどの会場でも知らない人が多かった。
- * 特に3の妊娠期間については、「そんなに短いのか」とびっくりされた人が多く、このアンケートで情報伝達ができました。
- * 設問6はこの会報13ページをご覧ください。
- * 設問8は地域差がありましたが、まだまだ、浸透してないのを痛感しました。



捨猫防止会ホームページ

<http://www.sutenekoboushikai.com>

「みんな生きている」自主上映会

3月28日、私の住む横須賀で活動している仲間で作ったグループ「にゃんずネット横須賀」の主催で「みんな生きている」の上映会と横浜市神奈川区環境衛生係長 黒澤泰氏の「地域猫のすすめ」の講演会を開催しました。

まずDVDの貸し出しの申し込みから始まり、会場の確保、横須賀市と神奈川新聞社の後援依頼書作り、ポスター、チケットの作成とポスター貼り。横須賀市と三浦市の動物病院約40軒をまわり、ポスターとチラシを配りました。

200人収容の会場に何人来てくれるのか、ガラガラだったらどうしよう、800円の入場料は高すぎか、赤字になってももっと安くすればよかったかな、など当日が近づくにつれ不安になったりもしました。

そして当日、予想以上の約140人余りの入場者があり、横須賀でもこんなに野良猫に関心を持ってくれる人達がいるということがとても嬉しく思いました。そう思ったのは映画を観に来ていた人達もお互い感じたことでもありました。

上映会のあとの黒澤係長のお話も好評でした。

入場する時に配ったアンケート用紙には、

1. 飼い主のいない猫のことがよく分った
2. 地域猫がどういうものかが分った
3. いろいろ考えるきっかけになった

と言う項目にほとんどの人が丸をつけていました。そして感想やご意見を書く欄にも「地域猫の導入としてわかりやすくとてもいい映画でした。多くの人に観てもらいたいです」

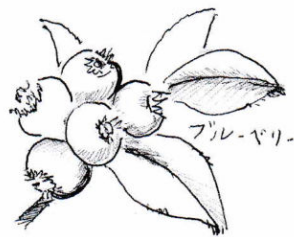
「小さな命の重さ、改めて実感しました」
「野良猫にエサをあげたりしていたけど、増えないための対策をすることが大切なのだと分かった。」

「分かりやすかった。勝手なえさやりさんにしっかり話ができる知識を得られました。」
「野良猫を見るたび切ない自分がいるのにどうして良いかわかりませんでした。映像内の、地域での活動で上手く共生していくためのきっかけを知ることができました。」

などの予想以上に好感触のアンケート回答をいただき、いろんな苦労や心労も吹っ飛び、やってよかった、とつくづく思いました。

泉悦子監督作品「みんな生きている」は監督自身が猫を飼い始めることによって感じたことを表現されたとのこと。家族のように大切にされる飼い猫と、人知れず生まれ、人知れず死んでいく野良猫。同じ猫なのになんでなの？という疑問からスタートしたと伺いました。野良猫を助けようと活動しているボランティア獣医師・行政の担当者取材。また、行政で犬猫殺処分をする国アメリカ、殺処分を原則禁止している国ドイツにまで行き、野良猫と野良猫に関わる人々の姿を追いかけた作品です。

(横須賀市 増井貴子)



小田原市における T N R 活動の報告

今年の 6 月に小田原で地域猫活動をしている「おだわらねこ」が小田原市内のある場所で T N R を行うと耳にしました。費用は寄付とバザーの売上で賄うとのこと。

以前からその場所の猫が気になっていた私は協力を申し出ました。以前、太田会長から「小田原市内の方から多額の寄付があったので、市内の猫活動に役立てることがあったら知らせてほしい」と云われていたので、資金援助をお願いしました。神奈川県捨猫防止会の役員会で検討され、15 万円の援助をいただきました。本当に有難うございました。

今、私は親の介護等でなかなか動けません。「おだわらねこ」の代表が、その地域の役員・市役所・市会議員・周辺自治会員と話し合い、週 2 回の T N R 活動が認められました。

その場所には約 70 頭の野良猫が生活しているようですが、既に 15 頭の猫の手術が済んでいます。残りの 55 頭の手術を 8 月から開始。当初は 9 月末の終了を見込んでいましたが、再々、捕獲器にかかる猫もいて、もう少し時間がかかりそうです。10 月末時点で、不妊手術数 38 頭（メス 20、オス 18）、子猫保護 4 です。

10 月に入ってから、同じ猫達ばかり入って、なかなか進みません。他の場所（公園等）にも行っているため、少し様子を見ようと思っています。

この活動により関係者や周辺住民、更にもっと多くの人々が猫に対する認識が変わり、トラブルがなくなることを祈っています。

（箱根町 菊川朋子）

金沢の民話「かなざわねこ」

私の住む町、金沢文庫には金沢猫という民話がある。

鎌倉中期、当時、金沢を治めていた学問好きで北条時実が唐国から沢山の品物を船で運び入れた。積荷や食料品をねずみの害から守るため、特に貴重な仏典・書籍を守るために、唐船には唐猫と一緒に乗せられてきた。唐猫は白黒黄の三色で、尻尾は日本猫より長く、とても大きな猫だった。

船での役目を終えた唐猫は金沢の地に住み着き、沢山の仔猫を産んで繁殖していった。子猫達は尻尾の短い三毛猫で「金沢ねこ」と呼ばれ、大変珍重されていたらしい。

時空を超えて、近年「人とペットの共存」が身近になった小動物、特に犬や猫は家族の一員として飼養する傾向が増えてきているが、都市部周辺では近隣の生活環境に迷惑をかけることもあり、ペットに起因する様々なトラブルが頻発しているのは、本当に残念です！！

「金沢区ねこ連絡会」は発足して 4 年余りのボランティア・グループで、個体管理されていない飼主不明の猫達を減らすため、地道に T N R 活動に取り組んでいます。T N R とは、T r a p（捕獲）、N e u t e r（避妊去勢手術をして中性化する）、R e t u r n（元の場所に戻す）ことで、外猫達が地域猫として、周囲の人々に温かく見守られて一代の命を全うできるよう力を注いでいます。

しかし、まだ区内の広場に捨てられる猫が増え続けることに心が痛みます！！

「人と猫とが共生していける環境」を目指す活動は、まだまだ続きます。

（横浜市 松尾和子）

「動物病院にて」

ある日、動物病院に入院中の仔猫を見舞いに行くと、ニコニコしながら尻尾をバタバタ振っているゴールデン・リトリーバ犬がいました。静脈点滴をしています。

「この子どうしたの?」「前立腺の病気です」「何才?」「13才」エーッ、今まで去勢していなかったの? 上段のミニダックス犬は首にカラーを付けて、これも静脈点滴中。

「この子は?」「子宮蓄膿症です」「何才?」「10才以上だったと思います」飼主はなににも知らないのだろうか!?

翌日は大きな黒いラブラドル犬がいて、心細げに私を見上げています。「この子はどうしたの?」「子宮蓄膿症です」「何才?」「13才かなあ・・・」何ということでしょう。更に飼主がトリマーと聞いて怒りバクハツ。

「無知な飼主による不適切飼養じゃないですか!」看護師さんは苦笑いしながら「以前、勤めていた都内の病院では蓄膿症の手術なんか殆どありませんでしたよ。この病院は多いですねー」

我が地域って、そんなに遅れているのかしら・・・。(川崎市 中曽根)



ジーパン再利用の猫さんのお出かけ袋

静岡県動物愛護フェスティバル

(富士山こどもの国)

9月20日、富士山南西麓 富士サファリパーク近く南下にある「富士山こどもの国」で行われた動物愛護フェスティバルに富士保健所管内登録団体ということで出店させていただきました。

当日はシルバーウィークの前半の日曜で、富士サファリパークに入りきれなかった全国から来た観光客の皆様が、こどもの国は入場料無料にしたこともあってか、1万人もの方々が入場され、ご覧頂きました。私共「捨て猫をなくす会」は、神奈川捨猫防止会からお借りした展示パネルを掲示したり、お分け頂いた「町会長のための野良猫講座」や絵葉書を配りました。

里親様募集の掲示板の前には、沢山の子供達が「猫かわいい〜!」と集まってくれましたが、やっぱり親御さんの方は「飼うのは無理!」といった感じ・・・。猫の譲渡ってなかなか難しいですね。やっぱり「飼えない猫は増やさない!」しか、ありません。

当NPO法人「捨て猫をなくす会」は会員になられていただいた方に不妊手術に対し独自の助成金をお支払いして、TNRに協力しております。

「めざせ猫の殺処分ゼロ」これからも全国の色々な動物愛護団体様に情報をお聞きして、勉強させて頂きながら頑張ります。ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

NPO法人 捨て猫をなくす会
代表 鈴木美晴

南相馬便り

2011年3月の大震災と原発事故から、4回目の春を迎えました。避難した当初は5年も自宅以外の場所に留め置かれるとは思っていませんでしたから、最近では飽きてしまって、多少諦めの境地です。今、借上げ住宅に住んでいますが、狭いし、午前中の2・3時間しか陽が入らないから冬は寒い。住宅が古くて雨の日が続くと壁からナメクジがわいてくる等々ですが、にゃんこを何匹置いても誰からも何も言われないことが気に入っています。

震災以来、今もにゃんこ救済をやっていきます。皆様からエサと義捐金を頂いているからです。吉田のグループは南相馬市の原町地区と小高地区を廻っています。今はエサ場を50カ所位に統廃合して、隔週給餌で、二手に分かれて全部のエサ場にエサを補充して来ます。吉田は隔週の間の週に心配なエサ場に通っています。つまり、毎週、行っています。人がいない所でにゃんこを見つけると、私たちが補充しているエサを食べて生きているんだなど、嬉しくなります。

小高・原町地区では“スペイクリニック”で300匹以上の猫をTNRしました。Sさん



が一人でやってくれました。さくら耳カットの猫をよく見かけます。

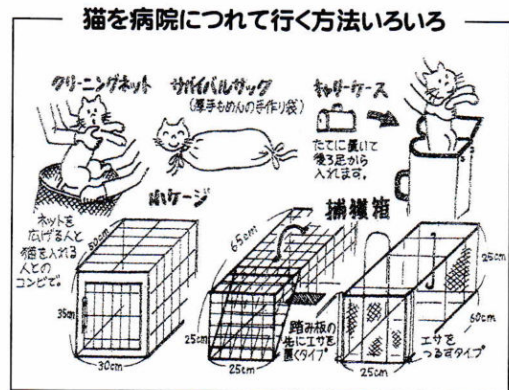
野生動物に食べられないよう、高い所にエサ場を作っています。にゃんこちゃんに食べて貰いたいからです。

原発被害地の榎葉町、富岡町、大熊町、浪江町、川内村、葛尾村、飯館村にも、それぞれのグループが行って、残された犬・猫を世話しています。

皆様もグループの人達と一緒に行ってお手伝いして頂ければ嬉しいです。特にエサ場作りは力仕事なので、男性、大歓迎です。にゃんこ救済が続けられますよう、エサと義捐金のご支援をお願い申し上げます。

皆様方のご支援・ご協力、心より感謝申し上げます。

(南相馬市 吉田美恵子)



捕獲箱の貸し出し等のご相談は事務局へ

お便り

☆助成金ありがとうございました。一年前、いつも通る道に捨てられたらしい親子ネコが2組、計7匹が固まって座っていました。その他にも首輪つきのオス2匹も現れ、同じ人が捨てたらしい猫たちで、餌はその近くの人があげてくれていました。8月・9月で全て、ここのネコは手術しました。飼っていても手術しない、餌を上げていても不妊手術をしない、殆どの方がそんな状態です。特に、お年寄りの方は金銭的な問題もあると思いますが、不妊手術の必要性を広めることが一番と思われれます。早く適正飼育の法律が浸透しなければ、ボランティアは破綻します。

(川崎 H・S)

★猫は体重2.3kgしかなく(成猫です)先生は手術をためらったそうです。術後1週間以上の予定で知人宅で養生させてもらっています。突然現れた猫で痩せて汚かったのですが、意外に人なれしているようで、もしかしたら捨てられてしまったのかも知れません。気は強いので、落ち着いて餌場近くで暮らしていたらと思っています。(川崎 I・H)

☆以前は、夜の帰り道にネコを見かけると、通りすがりに給餌していましたが、私を覚えていて、アパートまで来るようになりました。公園に人がいない時という時、雨が降っている時は雨よけできる所といろいろ対処しています。手術の予定がたちましたら捕獲器をお貸し下さい。ご連絡します。(横浜市 F・J)

★いろいろとお世話になりました。オス2、メス1、見つけて1週間になりますが、毎日、朝昼晩と餌を催促に来ます。最初の頃より馴

れたようですが、まだまだ触ることはできません。とても可愛くて、外にいるのを見るのが楽しみです。(藤沢市 F・K)

☆先日は猫に関する資料を送っていただきありがとうございました。動物病院から捕獲器を2台お借りし、ご近所のご協力で3匹の手術が済みました。成猫オス1匹、子猫メス2匹でした。手術代にもご配慮いただき、有難く思っています。まだ残った猫がいますが、中間報告致します。(小田原市 N・H)

★各地で猫へのエサやりから問題が生じて、トラブルにつながっている例が増えていきます。

横浜市磯子区の地域猫活動に携わっている獣医師の方のお話の中から一部を抜粋してお伝えします。(本文は会報60号に同封します)

「エサやりの現状に関するアンケート調査では、エサやり回数は1日1～2回。悪天候でもできるだけ頑張る。置き餌はしない等の回答が得られておりますが、ネコ科の動物は結構飢えには耐えられる動物です。一日ぐらい絶食してもビクともしません。動物園の肉食獣は胃を休める日を作っているようです。動物行動学では順化と言って、雨の日はお休みという経験が度重なると、猫の方も雨の日は絶食の日と学習して一日中寝て過ごし、胃を休めるという日課が出来るかも知れません。気楽に考えてみるのも長続きのコツではないでしょうか。若干、少なめに与えて綺麗になくなっておれば少し増やすなど、徐々に与える量を探るのも一つです。」

(横浜市 太田)

ご寄付のお願い

2015 年、猫ブームのきざしが見受けられています。TV やネットで可愛い猫の映像が頻繁に流れ、猫派の人々が増えて来ているのは喜ばしいことですが、安易な癒しを求めて猫を飼った人達が、適正な飼養を怠って、表紙のイラストのように増え続けていく状況になることを恐れます。

人と猫との健全な共生を願って地道な活動をしている神奈川捨猫防止会は、皆様方の尊いご寄附によって支えられてきました。ここに改めて御礼を申し上げます。今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

郵便振替口座 00210-6-48288

神奈川捨猫防止会



H 28 年度 会費の振込

既にご通知していますが、今年度（H 27 年）より神奈川捨猫防止会の会計年度は 1 月～12 月になりました。

H 28 年度の年会費は、同封の郵便振替用紙にて、H 28 年 3 月末日までにお振込下さい。

郵便振替口座 00210-6-48288

年会費：会員 3 千円

賛助会員 1 万円

不妊手術補助金申請書

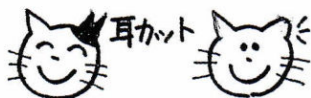
平成 28 年度より、不妊手術の補助金の申込みは、(従来の補助金はがきを廃止し)「補助金申請書」に切り替えます。

封書にしたのは、補助金の支払いを申請者のゆうちょ銀行、又は他銀行の口座に振込む方式に変更致しましたので、口座番号の漏洩を防ぐためです。

- ・「補助金申請書」は年 1 回、会員に 1 枚送付します。
- ・メス 5 千円、オス 3 千円を申請者のゆうちょ銀行の口座に振込みます。郵貯銀行以外の銀行への振込には、振込手数料を差引いた金額を振込みます。
- ・「補助金申請書」の有効期限は、当該会計年度内とします。
- ・「補助金申請書」の利用は会員及び会員より申請書を譲渡された方です。会員以外は、メス・オス共、一律に 3 千円と致します。
- ・特別の事情がある場合は、会にご相談下さい。

ご近所への報告の見本

猫の不妊・去勢手術済みのしるし



麻酔のかかっている手術中にしてもらったから痛くなかったヨ!

「町会長のための野良猫講座」の冊子は、今年4月に発行して以来、大変、ご好評をいただいております。

お送りした先は、会員・ご寄附いただいている支援者・各地で猫問題の活動をされている方々、不妊去勢手術にご協力いただいている獣医師の方々・行政窓口では、県内各市の動物担当窓口の方々です。

「読みやすい」「これなら誰にも分かりやすい」「自治会活動に役立てられる」等々、嬉しいお便りと共に追加注文も頂いています。

人と猫とが上手に折合いを作って過ごせるように、皆様のご理解とご協力が広まることを願っております。

冊子 1 冊 50 円、送料は下記の通りです。

1 冊 120 円 3 冊 180 円 10 冊 300 円

20 冊 360 円 50 冊以上は宅急便着払い

冊子代金は会宛に送付願います。

神奈川捨猫防止会

〒243-0292

神奈川県横浜市磯子区磯子 1-1-1

TEL/FAX 045-642-5179

郵便振替口座 00210-6-48288



冬も快適猫ハウス

発泡スチロールの箱利用 (寝場所)

誰にでも
カンタンに作れる!

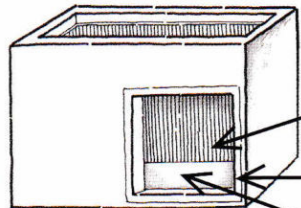
暖かい!



ふたが外せてお掃除楽々。

使用時はふたが飛ばないように重い石などをのせる。

汚れたり湿っているのは苦手。毎日清潔にしてネ。



内側にダンボールを添わせるとツメが立たないので白いコナコナが飛ばない。

出入口はガムテープで覆う。

床には寸法に合わせてたたんだ新聞紙を数枚敷き、毎日1枚ずつ外すといつでもきれいに保てる。